



www.hoseinet.or.jp
(法政大学校友会 HP)

ORANGE JOURNAL

法政大学 校友会報

よき師 よき友 つどひ結べり

Published by 一般社団法人 法政大学校友会

発行人：竹中 宣雄（校友会会長） 編集人：坂戸 俊夫（校友会副会長）

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3 法政大学九段校舎 4 階

TEL：03-3264-1831 FAX：03-3264-4770 E-mail：jimukyoku@hoseinet.or.jp

第 17 号（通算424号）

目次

全国市長会開催	P 2
QRコード開発者・原昌宏さんにインタビュー	P 3
東京法政まつり3年ぶりの開催	P 4
英語研究会100年の歴史	P 5
校友探訪「光明寺所属僧侶・木原祐健さん」	P 6
女子アイスホッケー「床姉妹」に聞く	P 7
歌手・奈月れいさん、学生の就職を支援	P 8

第9回 定時総会（代表議員会議）開く

竹中新会長を選出

◆新しい常態 ハイブリッド型総会が3年目に突入
◆予決算・事業計画・人事案件 全ての議案が可決承認される

2022年6月25日（土曜日）午後1時、法政大学富士見ゲート2階G201教室において、第9回定時総会を開催した。会に先立ち、法政大学陸上競技部の曾村部長・荻部監督・坪田監督から校友会の箱根駅伝の支援事業に対し、感謝の言葉があった。総会には三井和夫副会長（執行理事）の総会司会が始まり、大学・校友会・後援会物故者への黙祷、廣瀬克哉名誉会長（総長）の挨拶、佐々木郁夫会長の開会挨拶と続いた。議事録署名人が、議長および監事全員を指名して、定款により議長に佐々木会長を選任した。

◆決議事項◆

第1号議案

議決権を有する代表議員総数 187名
出席代表議員数（委任状による出席を含む） 187名
右のとおり代表議員の出席があり、定時総会は適法に成立したので、開会する旨を宣し、直ちに議事に入った。

2021年度事業報告（案）
おおよび決算報告（案）の件
議長は、前年度（2021年4月1日から2022年3月31日）における事業・会計報告について詳細に説

第2号議案

明し、貸借対照表、正味財産増減計算書を提出してその承認を求めた。
次いで飯塚昇監査役が、右の証憑書類を監査役全員で綿密に調査したところ、いずれも正確妥当であることを認めた旨を報告した。

2022年度事業・予算計画（案）の件
議長は、当年度（2022年4月1日から2023年3月31日）における事業・予算計画について詳細に説

第3号議案

役員改選の件
（1）会長ならびに監事選任の件
（2）理事選任の件

（3）執行役員改選（会長推薦）の件
人事案件は、全て原案どおり承認された。
決議事項は、特段の異議なく、可決承認された。
議案審議の後、各代表理事から多数の質問・意見が寄せられた。
以上をもって本総会における報告および全議案の審議を終了したので、議長は午後3時に閉会を宣言した。



校友会新会長挨拶 竹中 宣雄



歴史と伝統ある法政大学校友会の会長にご選任いただき、責任の重さを感じるとともに、ご推薦賜りました皆さまに感謝申し上げます。

コロナ禍に伴い、三大イベントやパートナー組織の活動が中止・延期を余儀なくされる中、校友会ではスローガン「全ての校友が繋がるのも、さまざまに取組む行ってきた。」

トフオン上で最新情報の閲覧や電子会員証の表示、各種手続き等が行えるようになりまし。

さらに、今年1月には会員向け優待サービス「校友会クラブオフ」の提供を開始しました。国内外20万以上の施設で優待・割引が受けられるサービスで、多くの会員の方にご好評いただいております。

今後は、校友ネットワークの拡充と学生支援の強化に取り組み、いきなりと考

えております。

校友ネットワークの拡充

皆さまのご尽力により、パートナー組織81団体、海外団体13カ国・地域17拠点、会員数約6万5千名と重厚な校友ネットワークが構築されつつありますが、今後ネットワークのさらなる拡充を目指します。

学生支援の強化

校友会には、大学で学んだスキルや経験を生かし、社会に貢献している会員が大勢います。このリソースを活用して、第一線で活躍する卒業生の実績・ノウハウを学生支援に役立

校友会会長 竹中宣雄（たけなかのぶお）プロフィール
1972年社会学部卒業、ミサワホーム株式会社入社。
2008年同社代表取締役社長執行役員、2017年取締役会長。
2022年6月に会長職を退任して取締役として留任。
校友会においては、現在に至るまで約20年間、法政財界人倶楽部で活動している。
本部役員としては、2019年参与、2020年副会長を経て現在に至る。
2017年藍綬褒章受章、2022年旭日重光章受章。

てようと模索中です。
加えて、従来行っている募金事業について、今後継続して大学・学生を支援してまいります。
皆さまのご協力・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

文学部創立百周年記念イベント

「文学部の過去・現在・未来—百年間のたからもの—」のご案内

文学部は今年で創立百周年を迎えました。私立学校が法令で大学として認可された1920年に法学部・経済学部の設置とともに予科の充実が図られた2年後、法学部に哲学科・文学部の2学科からなる通称「文学部」を併設したのが文学部の始まりです。予科長をも務めた英文学者、野上豊一郎や文学部長に就任した哲学者阿倍能成を中心に夏目漱石門下の俊英らが教壇に立ってスタートしたこのときが本学の自由な学風の原点となりました。

これを記念し、下記のように記念行事を実施します。第一部は野上が文学部内に設置した能楽研究室に始まり、今年70周年を迎える野上記念法政大学能楽研究所との合同企画、第二部では長年にわたって本学部の教学をリードされてきた先生方によってこれまでの歩みをふり振り返り、未来を語る討論を予定しています。

日時:2022年10月15日 13:00～17:00

第一部 「能楽研究所との合同企画」

講演（日本文学科伊海孝充先生）、演舞・演奏、展示

第二部 シンポジウム「文学部の過去・現在・未来—百年間のたからもの—」

登壇者:牧野英二先生（哲学科元教授）、堀江拓充先生（日本文学科元教授）、結城英雄先生（英文学科元教授）、山名弘史先生（史学科元教授）、佐藤典人先生（地理学科元教授）、吉村浩一先生（心理学科元教授）

やむを得ずオンライン開催となりましたが、代わりに全国どちらからでもご視聴いただけます。接続先などは、追ってホームページその他で告知します。
文学部に限らず、法政大学の学風「自由と進歩」、そして憲章「自由を生き抜く実践知」のルーツをたどる催しとなるはず。校友のみならず皆さまのご参加をお待ちしています。

新役員一覧（敬称略）

会長

竹中 宣雄 1972年3月社会学部社会学科卒 **新任**

副会長（順不同）

田崎 稔	1979年3月経済学部経済学科卒	再任
坂戸 俊夫	1969年3月経営学部経営学科卒	再任
三井 和夫	1978年3月経済学部経済学科卒	再任
大森 廣行	1970年3月経営学部経営学科卒	再任
中村 寿美子	1981年3月法学部法律学科卒	再任
石渡 洋行	1983年3月法学部法律学科卒	再任
岡本 眞司	1970年3月経営学部経営学科卒	新任
池谷 文雄	1980年3月法学部法律学科卒	新任
田中 利幸	1982年3月経営学部経営学科卒	新任

監事（順不同）

山崎 正俊	1970年3月法学部法律学科卒 弁護士	再任
笈地 敏彦	1976年3月経営学部経営学科卒 税理士	再任
飯塚 昇	1974年3月経営学部経営学科卒 公認会計士	再任
廣岡 康久	1985年3月法学部法律学科卒	新任
伊藤 昌子	後援会事務局長	新任



地方行政のリーダー
全国法政大学卒業生等市長会を開催

5月31日全国法政大学卒業生等市長会第8回総会がボアソナード・タワー26階A会議室で令和元年以来3年ぶりに、11名の現役市長、9名の大学関係者、19名の校友会関係者が参加して開催された。

この会は全国各地で活躍している本学卒業の市長等相互の親睦を深め、各地方行政および法政大学の発展に寄与するために開催されており、当日は校友会副会長三井和夫氏が司会を務めた。初めに来賓の前内閣総理大臣・衆議院議員菅義偉

様より祝辞を頂いた。「官房長官として8年、内閣総理大臣として1年、この間のご支援を心より感謝するためのお礼に伺った。ワクチン100万回接種を多くの方々からの反対を受けながらも実施したことは良かった」と挨拶された。

次に石川県かほく市長・油野和一郎全国卒業生等市長会会長の挨拶、そして廣瀬克哉総長が「大学はこの2年間オンライン授業が中心であった、オンラインで学ぶという面では、意外に使えるものだと思感もしたが、一方本年度からほとんどの学生がキャンパスに戻っており、多くの学生たちから『先生、やはり対面

授業はいいもんですね」と言われている」と紹介。そして佐々木校友会会長が「法政は地方自治体に就職している卒業生が多い、おそらくは早稲田、日大に次いでわが国で3番目だと思ふ。17名の現役市長さん、この卒業生たちが地方で活躍していることは私も誇りである」と祝辞を述べた。

この後、総会に入り、市長会幹事長黒崎武英氏の司会で会務報告が行われた。議長は油野会長。この3年間に於ける4名の退任と5名就任の件、また、令和2年10月の総理官邸表敬訪問を13名の市長で行ったことが報告され、続いて1名

欠員になっている副会長に福田良彦岩国市長が選出された。

特別講演は廣瀬総長により「地域振興の担い手としての各市長に期待する事」と題して行われた。総長の専門分野は「地方自治法」であり、大学と各地域の関わり方をいくつか具体例を挙げて話し、さらには市政を統括されている皆さまと大学とがどんなコラボレーションが出来るかについて地域振興の観点から進めていきたいと話された。

閉会の挨拶は法政大学校友会の竹中宣雄副会長が行い、お開きとなった。

(文 石毛利雄、写真 大桃信義)

「法政大学校友会憲章」

私達は、法政大学卒業生として自由を基本に自主性と多様性を守り持続可能な社会を実現するために「価値」を創造します

行動指針

1. 私達は、人を大切にし、世界で活躍する卒業生と母校が社会・世界・人類の平和と発展に貢献するために価値を創造します。
2. 私達は、ライフステージに応じて自由に参加し、価値の創生・共創を進めます。
3. 私達は、全員が価値を提供して自己実現を行い、体験を通して自己足跡を残すことを支援します。
4. 私達は、自主性と多様性を尊重し、大学・後援会・校友会が三位一体となりオール法政のネットワークを強固なものとしします。
5. 私達は、倫理と社会責任を自覚し、校友会の絆をさらに強めます。
6. 私達は、情報の価値を認識し、適正に管理発信し且つ保護します。

運営体制

1 ブロック体制

北海道ブロック	北東北ブロック	南東北ブロック	北信ブロック	関越ブロック
北関東ブロック	東京ブロック	南関東ブロック	中部ブロック	関西ブロック
近畿ブロック	中国ブロック	四国ブロック	北九州ブロック	南九州ブロック
学部同窓会ブロック	付属校同窓会ブロック	職域第1ブロック	職域第2ブロック	教職員ブロック
法政士業の会	スポーツ第1ブロック	スポーツ第2ブロック	スポーツ第3ブロック	海外支部

2 業務執行委員会・プロジェクトチーム

委員会・プロジェクトチーム	
(1) 三者共同委員会	(5) 規約管理委員会
(2) HP/SNS 拡充 システム情報一元化PT	(6) 寄付金委員会
(3) 法政スポーツコミュニティ (HSC) 支援PT	(7) 法政版 SDGs 検討委員会
(4) 中央選挙管理委員会	

2022 年度一般社団法人法政大学校友会事業計画

I 2022年度基本方針

昨年度もコロナ禍で集合型の活動が様々な制約を受ける中、ウィズコロナの時代にも「全ての世代が繋がる」スマートフォンを活用した情報交流の仕組みづくりの構築で、今後の活動に向けて一定の成果を出すことができた。

今年度もコロナ禍の続く事が予測される中で3大イベントをはじめとする集合型イベントについては、ご参加いただける校友の皆様や大学関係者の健康と安全を考え、安心して参加できる体制づくりを第一とし、実開催の出来る環境を探っていく。

一方、昨年度からスタートした会員増強のための施策である、全ての校友が繋がる会員向けサービス充実のための、1「校友会公式アプリ」「電子会員証」、2「法政オレンジMAPの展開」そして、3「終身会員向けの優待サービス（法政大学校友会クラブオフ）」などの終身会員のメリットを活用してもらえるよう働きかけていくと同時に、このサービスを契機として、終身会員の拡大に繋げていく。

また、昨今の気候変動を筆頭に世界で社会の持続性に注目が集まっているが、こういった時代にこそ母校を同じくする仲間が集まり、大学の研究者とともに力を合わせた法政ブランドでの社会への価値提供を行うために、「法政版SDGsの取組み」を検討・実施する。

今年度、法政大学校友会は法人移行後8年を経て、パートナー組織81団体、海外団体13ヶ国・地域17拠点、会員数約6万5千名の重厚な組織となったが、「法政大学校友会憲章」を根幹に置いたうえで、全国のパートナー組織と共に校友会活動のさらなる質的向上を実現する体制づくりを行っていく。

II 主要施策

既存施策の継続を基本とし、その中で主要施策を定め、運営を行うこととする。

1.全ての世代が繋がるネットワーク拡充

(1) 会員拡大への再取組み

これまで、既卒者終身会員を毎年約600名増加させるとの目標に取り組んできたが、近年約200名前後の増加にとどまり、このままでは財政運営が悪化する恐れがある。“全ての世代が繋がる”校友会の世代交代に備えるためにも喫緊の課題であり、約600名の終身会員増加の実現に向けた取組みを実施する。前年度に構築したデジタル化や優待サービス等の仕組みを軸に、これまで継続してきた事業に即した活動を展開し、校友会の認知向上を図り、終身会員の増加を目指す。

- ①シニア層:3大イベントや各パートナー組織での活動を推進する。卒業後50年の卒業生に向けた取組みは継続する。
- ②現役層：仕事や趣味等で活用できる機会の提供や、在学生への就職活動支援を通じて拡大を図る。
- ③青年層:「法政オレンジコミュニティ (HOC)」を軸に、主に20・30代の卒業生を対象としたイベントを開催する。年度同期会員については、校友会への参加意識、ニーズを探りながら、各パートナー組織への所属変更を進めていく。
- ④女性層を取り込むための施策を検討し、各世代に浸透させる。
- ⑤新たな取組みとして、配送部数の最も多い（約13万部）広報誌『法政』7・8月号に、校友会の会員向けサービス内容と会員募集のためのチラシを同封し、会員増強に繋げる。

(2) パートナー組織の拡大とブロック体制の強化

校友会の持続的な発展の実現に向けて、地域組織・学部組織・スポーツ組織等のパートナー組織の拡充は極めて重要である。年度同期会をはじめとする若手層の組織の在り方についても、検討を開始したい。また、制度発足5年目を迎えるブロック体制は「パートナー組織の自主的な活動の促進」に一翼を担っている。

- ①CCS^(注)企画事業の推進・拡大（注）CCS…キャリア支援、カルチャー活動、スポーツ交流
- ②ブロック体制の定着と強化
- ③パートナー組織の更なる拡充

(3) WEB 環境を活用した連携、連絡体制の強化

- ①WEB決済機能、電子会員証、法政大学クラブオフ等の利用者数の拡大
- ②全国の校友を応援する法政オレンジMAP登録店舗数の拡大
- ③地域通信「地域の歩き方」の更新

2.「価値創造」イベントの推進

校友会における大きな価値の一つとしてネットワークが挙げられるが、世代・地域・職業等により価値やネットワークの在り方は多様である。イベント等を通じて、校友にとっての価値をさまざまな形で提供していく。

- ①さまざまな世代がつながる機会となる取組み
- ②パートナー組織における地域・職業等のニーズに合わせた取組み
- ③オール法政を目指し、大学・後援会・校友会の三者で連携した取組み
- ④大学・パートナー組織・校友会で連携した取組み（地方共創プログラム他）
- ⑤社会・未来貢献テーマの選定と全国での取組みの検討（SDGs他）

3.大学・学生支援活動の充実

校友会における大学・学生への財政面での支援は重要な事業の一つである。奨学金をはじめとした寄付については、2021年度に引き続いて行うこととする。また、将来的な継続性も考慮し、寄付金委員会主導の下、各校友等からの寄付や、収益事業の拡充へ向けて検討する。

- ①一般社団法人法政大学校友会奨学金、SGU基金をはじめ、既存の支援活動の継続
- ②株式会社エイチ・ユーと連携した収益事業の継続
- ③ブロックまたはパートナー組織との連携事業の展開（地方共創プログラム他）
- ④キャリアセンターからの要請に基づく就職支援活動の継続

4.本部運営の強化

校友会の持続的な発展を実現するため、パートナー組織との連携、また大学・後援会との連携は必要不可欠であり、そのためには本部運営の強化が重要となる。本部運営に関わる諸取組みを実施する。

- ①会員情報管理の整備と盤石なネットワーク体制の構築
- ②本部執行担当理事の機能強化
- ③オンライン・オフラインによる情報発信・伝達の充実
- ④部会の再編成を検討
- ⑤事務局体制の強化

〈進取の気象〉デンソーウェーブ 原 昌宏さん

QRコードの開発者、時代の寵児が語る過去から未来

QRコードは94年、日本電装（現・デンソー）で原昌宏さんを中心に開発された2次元コードです。今や全世界で活用されているこの技術は、工場や物流管理、各種電子決済などその活用は多岐にわたっています。QRコードは、特許を取らずにオープンソースとして公開されているため、世界中に普及しています。

日本人初の欧州発明家賞を受賞した原昌宏さんは、人類の幸福の実現に寄与されています。



原 昌宏（はら・まさひろ）氏
【QRコード開発者】
株式会社デンソーウェーブ
AUTO-ID事業部 主席技師。
1957年東京生まれ。76年法
政大学第二高等学校卒業。
80年法政大学工学部電気工
学科卒業。同年日本電装（現
デンソー）入社。84年パー
コードハンディスキャナを開
発。94年にQRコードを発表。
02年全国発明表彰発明賞、
14年欧州発明家賞など受賞
歴多数

人員も、期間も、最小限で開発

——今や、QRコードを知らない人はいないと思いますが、開発された原さんが本学同窓であることを誇りに思います。発明の源はいつ頃なのでしょう。

原 小学生時代はプラモデルで夢中で、よく戦車などを作り砂場で遊んでいました。中学生になると色付けしたり、よりリアリティのあるモノづくりをするようになりました。

父親が電気関係の技術者で特許を持っており、親戚からはお前も父親のようになれ、と言われ、中学時代からは自然にエンジニアを目指していました。

——その結果がQRコード開発で花開いたのですが、特許取得したのにそれを独占せずオープンにされたのはなぜですか。

原 特許の期限は20年です。この期間をなくし、多くの業界の方々に使ってもらい、普及を早めることが大事だと考えたからです。

どんなに素晴らしい開発をしても、使ってもらえる環境がなければ広く普及しません。そこでQRコードの仕様を公開し、誰でも自由に安心して使える環境を整えました。

——特許を取得されたのはいつですか。

原 94年に特許出願し、98年に特許取得しました。私どもとしましては、良いものができたので業務用で、特に物流関係や企業の電子取引で使ってもらえたらとは思いましたが、まさか現在のように用途が拡大するとは予測していませんでした。

——最初はバーコードの読み取りから入っていかれたんですね。

原 当初、バーコードリーダーのスキャナー開発に携わっていました。

しかし、バーコードは20文字くらいしか入力することができません。デンソーでは、一日に1万枚ものバーコードを一つ一つ読み込む、大変な作業量になります。その上、工場ですから油污れも出たり破損もします。この状況を見た時、バーコードでは限界があると思い、次世代のコードが必要だと考えました。

この問題を解決するために、2次元のQRコードの開発に取りかかったのです。

——その時、会社側にどのように提案されたのですか。

原 92年のことですが、これからはもっと情報化時代になるから、工場以外にもいろいろな情報を発信するため、バーコードを超えた開発が必要になると提案し、受け入れてもらいました。

ただし、会社が示した条件は、人員は2人、期間は2年、費用は最小限という厳しいものでした。

利便性を高めるために常に進化

——その厳しい条件をクリアし、94年に開発に成功、欧州発明家協会から日本人で初の受賞をされました。今、最もQRコードを活用しているのが中国だそうです。アリババが使用して一般化したため、中国ではQRコードは中国人が発明したものだと思っている人が多いと聞きました。

原 そうなんです、最近の中国4大発明の一つだと言う人もいます（笑）。

02年に携帯電話にQRコード読み込み装置が搭載されたことにより、普及が一気に加速し、世界中の人々が使用するようになりました。

常に多くのニーズを収集し、新しい機能を搭載、QRコードを進化させてきました。例えば企業の機密情報や個人情報扱えるように暗号機能を搭載したり、チケットなどに使えるように印刷技術と組み合わせ、コピー機では複製できないQRコードも開発しました。

これらによりセキュリティ関係でも使われるようになりました。最近では顔認証技術と組み合わせ、個人認証にも使われています。

——QRコードは汚損、破損しても間違いなく読み取れ、その上スマホでは斜めから読んでも確実に読み取れる、しかもスピーディに。正にクイックレスポンスですね。

原 誤読率は10のマイナス15乗、ほとんど完璧に読み取れるといっても過言ではありません。

ラッキーだったのはQRコードを使う環境が、自動車工場で油污れが当たり前だったことでした。その厳しい環境で使えなくては意味がないのです。そういうこともあって、それを目標に開発を進めたことが良かったと思います。

——QRコードの三隅にある小さな四角形のファインダーパターンは、どのようにして生まれたのでしょうか。

原 早く読めるにはどうしたら良いかと常に考え

ていて、たまたま電車の中から窓の外を見ていた時、一つのビルだけ屋上の形が異なっており目立っていました。これがQRコードに目印をつけるヒントになりました。

——多くの技術者は自分目線で開発しますが、原さんは違いますね。

原 どんなに良いものを作っても、最終的に使用してくれる人が便利になる物でなくては使ってもらえない。私は使ってもらえる人のためにいいものを作る、そのため常にユーザー目線で開発を続け、どんどん進化させています。

——常に進化ですね。その意味ではQRコードも二次元にとどまらず、3次元、4次元へと進化していくのではないですか。

原 そうです。現在のQRコードではテキストしか入れられないので、画像などを入れたいと思っています。さらに、QRコードをカラーにして情報をさらに増やしたいと思っています。

そうすることによって医療関係でも、もっと使ってもらえるようになります。

QRコードは誰でも安く簡単に作れて使えるところが、ここまで普及した要因ですから、それをさらに進化させていきたいと思います。

自分は作ることが楽しみなので、苦労だと思ったことは一度もありません。

失敗を恐れず、成功の種にする

——学生時代のお話をお聞かせください。理系学部では研究室での活動が盛んですが、当時の研究室の思い出を教えてください。

原 自由にやらせていただいたゼミでした。それが法政の良いところだと思います。「自由と進歩、進取の気象」の学風が何よりでした。

おかげさまで、本当に楽しい学生生活を過ごさせていただきました。

——原さんは学生時代、六大学野球観戦が趣味だったとお聞きしていますが、今年の箱根駅伝では、法政二高の後輩の内田君、鎌田君が大活躍し、念願のシード権を獲得しました。ご覧になりましたか。

原 もちろん、観ました。後輩の活躍で応援にも力が入りました。うれしかったですね。

大学野球が好きなのは、自分も小さい頃は野球をやっており、大学時代は江川選手が活躍して

法政全盛時代でしたから。神宮へはよく行き、帰りには皆で祝杯を挙げて楽しみました。

——現在は母校との交流はありますか。

原 2年前から経営学部堀口教授のゼミで、QRコードのイノベーションについての講演をさせてもらっています。

——「座右の銘」を聞かせください。

原 座右の銘は『草魂（そうこん）』です。子どものころ藤井寺（大阪府）に住んでいた関係で、近鉄パッファローズのファンでした、この時期に鈴木啓示選手がいつも口にしていた言葉が「草魂」でした。鈴木選手は踏まれても蹴られても一所懸命頑張れば、雑草のようにしっかりと根を張り大きな実になるのだと言い続けていました。

また、入社当初の上司が「うちは自動車のパーツ屋だけれど、これからはコンピューター、ソフトの時代が来るぞ、ソフトの研究もするといひよ」とアドバイスしてくれたおかげで、ハードのみならずソフトの研究もした結果が現在につながったと感謝しています。

——好きな食べ物

原 肉系ですね、それとうなぎ、名古屋ですから「ひつまぶし」系が好きです。

——定年を迎えたら農業をやりたいとお伺いしましたが、どんな農業ですか。

原 農業でも品種改良をしたいと思っています。食料危機問題の解決のお役に立ちたいし、新しい物を作りたいのです。

ただ、会社からまだ残ってくれと言われてるので、しばらく先になりそうです。

——若い校友たちへのメッセージをお願いします。

原 まず自分のビジョンを持ち、それを諦めずにやり抜くこと。失敗は新しいことをする時にはつきもので、失敗することから分かることが沢山あります。とにかく失敗を恐れず新しいものを吸収してください。

（聞き手 元角昌三 構成 石毛利雄）



思いついたら即行動！何事にも挑戦

小学生からフィギュアスケートを始め、浅田真央さんと同じ中京大京高校に入学、青春の全てを氷上で過ごしました。

語学学習に注力すべく上京、文学部英文学科へ進学。勉強、サークル活動に励み

を、何かもが新鮮で胸を張って学生生活を謳歌したと言いつつ、卒業後は、三井物産に入社しました。

しかし、「英語が話せるようになりたい」という思いが諦めきれず、語学留学を決意し退職。新型感染症



山口 響子
17年 文学部
英文学科卒
太平洋貿易株式会社

初めてスケートと離れ「普通の大学生」として過ごした新天地東京での学生生活は、何もかもが新鮮で胸を張って学生生活を謳歌したと言いつつ、卒業後は、三井物産に入社しました。

ゼミ仲間との語らいを財産に

「おっとり刀でトライしなさい」。指導教官だった中野収先生の言葉が今も耳に残っている。激動の新聞業界に身を置く一人として、まさに「スピード感」を意識しながら、今も右往左往を続けている。

「おっとり刀でトライしなさい」。指導教官だった中野収先生の言葉が今も耳に残っている。激動の新聞業界に身を置く一人として、まさに「スピード感」を意識しながら、今も右往左往を続けている。

「おっとり刀でトライしなさい」。指導教官だった中野収先生の言葉が今も耳に残っている。激動の新聞業界に身を置く一人として、まさに「スピード感」を意識しながら、今も右往左往を続けている。



広部 憲太郎
'00年 社会学部
社会学科卒
朝日新聞社
ツギノジダイ副編集長

中野ゼミでの専攻は「メディア論」。小冊子作りやアイドル研究などに取り組んだのも思い出深い。だが、何よりの財産はゼミ仲間との語らいだ。

親子で校友会を盛り上げる

まずロシアによるウクライナ侵攻の犠牲となられた皆さまには追悼の意を表します。私は在学中、第二外国語にロシア語を選択した縁で、モスクワ、レニングラード（現サンクトペテルブルク）等を巡る14日間の

ワ、レニングラードへの旅です。世界三大美術館の一つ、エルミタージュ美術館のダヴィンチ等の絵画や、シベリア大陸の広大さに感銘を受けました。

現在は地元岡山へ戻り、運輸倉庫業界でエッセン



藤森 元則
'76年 経営学部
経営学科卒
藤森運輸株式会社
代表取締役

校友会では、岡山県校友会副会長を務めており、17年には中国ブロック理事を経験させていただきました。

ESSAY

校友随想

「法政おおわが母校を卒業して幾年。各地で活躍し、その後の人生模様を寄稿願った。

校友会では、岡山県校友会副会長を務めており、17年には中国ブロック理事を経験させていただきました。

SERIES

校友会紹介

石川県校友会

菅義偉前首相、石川県校友会で講演！

2月12日(土)、菅義偉前首相の石川県入りに合わせて、法政大学石川県校友会の懇談会が、小松市の「ホテルビナリオKOMATSU セントレ」で、校友会員ならびに後援会員40名を集めて開催されました。



塚本幹雄石川県校友会会長(経済卒・コマーシー(株)会長)の歓迎挨拶、宮内陸加賀市長(法・政治卒)の挨拶に続き、菅義偉前首相の講演会が始まりました。

菅前首相は秋田県(現)湯沢市から上京し、法政大学卒業後に小此木彦三郎代議士の秘書を務め、政治家の道を歩み始めました。

横浜市議時代の話に始まり、神奈川県で衆議院議員

になり、総務大臣として「ふるさと納税」に取り組み、官房長官として安倍首相(当時)を支えました。

そして、法政大学卒業生として初の内閣総理大臣(第99代)に就任して、2050年脱炭素社会の実現を宣言、コロナワクチン接種率世界トップクラスの水準達成、携帯電話料金の大幅値下げ、不妊治療の保険適用、デジタル庁発足、子ども庁創設準備、そして、東京五輪が開催できた話を

「地方分権」という政治家としての原点を忘れず、今後も取り組んでいきたい

- ### <北海道校友会札幌支部100周年記念事業概要>
- 日時:令和4年8月27日(土)
○15:00~16:00 廣瀬克哉総長による記念講演
○17:00~19:00 懇親会
 - 場所:札幌パークホテル
(札幌市中央区南10条西3丁目1番1号、TEL:011-511-3131)
 - 参加費用(懇親会費):1万円

東京都校友会 東京法政まつり in 吉祥寺

22年5月28日は晴天に恵まれ、日本一住んでみたい街に選ばれている「吉祥寺」の「武蔵野公会堂」へ廣瀬克哉総長、佐々木郁夫校友会会長をはじめ295名の校友の参加、また早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学、中央大学、國學院大學、東京国際大学、創価大学、関西大学の校友会代表を迎えて開催された。

冒頭、今回のまつりの実行委員長である多摩北部支部元角昌三支部長から、コロナ禍を克服し、3年ぶりに開催できたことに安堵(あんど)しているとの開会の挨拶があった。続いて、主宰の東京都校友会山本富士哉会長挨拶、廣瀬総長、佐々木校友会会長、朝日健太郎参議院議員、開催都市から池澤隆西東京市長などから祝辞をいただき、4時間30分に及ぶ東京法政まつりが開始された。

総合同会は、本学「自主マスコミ講座」出身の館谷春香さんが担当した。第一部は廣瀬総長、小堀哲夫デザイン工学部教授、糸久正人社会学部准教授による「法政大学のグランドデザインを語る」と題した鼎談(ていだん)が行われた。各キャンパスのアイデンティティを確立すべきだとの話が注目された。

第二部の皮切りは田辺いちかさんの講演。著名の「いちか」は師匠が「いちかは番」「幻想即興曲」「子犬のワルツ」などのなじみのあ



宮谷理香さんのピアノ演奏

曲を見事に歌い上げた。最終バッターは、95年シヨパン国際ピアノコンクール入賞者・宮谷理香さんのピアノコンサート。「トルコ行進曲」「愛の夢第3番」「幻想即興曲」「子犬のワルツ」などのなじみのあ

PARTNER NEWS

パートナー

地域・卒業生団体
学部・付属校同窓会
だより

持ちで付けてくれたとの逸話で笑わせ、定評のある話術で聴衆を引き付けた。次に本学落語研究会出身の三遊亭兼太郎さんが登場し、明るくテンポの良い語り口で「やんやの喝采」を浴びた。

第三部は法政の歌姫、奈月れいさんによる歌謡ショー。「お久しぶりね」に始まり、東京パラリンピック・シッティングバレーの主題曲に選ばれたオリジナル曲「明日へ」と続き、アンコールは美空ひばりの「人生一路」と、全7曲を見事に歌い上げた。

北海道校友会 札幌支部100周年 記念事業のご案内

校友の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私ども、北海道校友会札幌支部は、今年で設立100周年を迎えます。

そこで、令和4年8月27日(土)に、札幌パークホテル(札幌市中央区南10条西3丁目1番1号、TEL:011-511-3131)において、記念事業として、廣瀬克哉総長による記念講演(15時から16時まで)、懇親会(17時から19時まで、参加費一万円)などを実施したいと考えております。

札幌支部会員以外の校友の皆さまにも、ぜひともご参加いただきたいと存じます。

文学部同窓会

「森鷗外記念館」を訪ねる

文学部同窓会では、「特別企画」として春と秋に都内・近郊散策を行って

5月13日(金)、本会の清原会長(本学名誉教授)にご参加いただき、文京区千駄木の「文京区立森鷗外記念館(平成24年リニューアルオープン)を訪れました。

千代田線「千駄木」駅に集合して、折からの雨の中、団子坂を登るとすぐ左側が記念館でした。

森鷗外(1862~1922)は島根県津和野出身で、明治25年(1892)この記念館が建つ地に居を構えて「観潮楼」と命名し(この地は高台で、当時は二階から品川沖が見えました、



森鷗外記念館で

千葉県内房支部

駅伝部へ差し入れ

千葉県校友会内房支部(小尾明支部長、昭和46年法学部卒、会員78人)では、21年12月13日、正月恒例の箱根駅伝大会を前に、管内の南房総国定公園・県立富津公園(富津市)で合宿中の駅伝部に、スポーツドリンクを差し入れました。

今年で4回目となる支部の行事で、小尾支部長や関政彦相談役ら役員3人が合宿中の民宿旅館「ナカヤメイン」を訪れ、エントリ

選手16人に対し「一番まであと3週間。けがをしないように頑張ってください」と激励し、段ボール5箱分のスポーツドリンク(500ミリリットル入り120本)を手渡しました。

東京法政ライオンズクラブの活動報告

4月16日(土)東京法政ライオンズクラブのメインアクティビティの一つとして、春と秋の年2回行っている、靖國神社清掃奉仕が、メンバー関係者含めて、約20名参加で行われました。

前日までの強い雨も止み、暖かい日差しの中、参加されたお一人一人が心を込めて清掃し、今回も千鳥ヶ淵戦没者墓苑に厳かな気持ちで献花しました。



これからも、経営学部同窓会として皆さまに楽しんでいただける企画を計画しますので、ご期待ください。後はホームページ「法政大学経営学部同窓会」で...

(昭和63年3月経営学部卒業 合間理之)

経営学部同窓会

東京六大学野球 春季リーグ戦観戦

22年5月22日経営学部同窓会にて、東京六大学野球春季リーグ戦の対東大戦を観戦する企画を、開催しました。

昨シーズンまでは観客は内野席に入り、応援団だけが遠く離れた外野席で応援を行っていましたが、昨日の試合より、応援団の応援エリアが内野席に変更となったため、私は応援団の近くに経営学部同窓会の方々と陣取りました。

試合前に行われるエールの交換や校歌斉唱では応援団の演奏と太鼓だけで、観客は声を出すことができない中、両校の選手がホームプレートに集まり試合が始まりました。試合中も、選手への声援や点数が入った時に行われる隣の人の肩を組んでの校歌斉唱ができて、終始拍手だけの応援に物足りなさを感じましたが、選手たちへの思いを込め、手のひらは熱く汗ばんでいました。試合結果は9対2で勝利を収め、この東大戦で勝点3を獲得しました。

これからの、経営学部同窓会として皆さまに楽しんでいただける企画を計画しますので、ご期待ください。後はホームページ「法政大学経営学部同窓会」で...

SERIES

パートナー組織紹介

さかのぼること35年前、当時の伝統ある他大学では卒業生企業経営者の団体があるにもかかわらず、本学にはそれらしき会が存在せず、そのような中、工学部(当時)の卒業生有志によって当会の前身である法政大学経営者懇談会が産声を上げました。設立から3年後の1990年に会員資格を再考し、全学部の出身者を対象としてからは、会員も

法政卒業生企業経営者の相互扶助と発展のために

(二財)法政大学経営者懇談会

主な活動は、さまざまな業界で経営者として活躍する会員による調査・研究会のほか、外部の経営者や、各界の識者、時にはスポンサーなどを招いた講演会



や懇談会などです。このような活動は、経営者の識見を向上させるだけではなく、互いに刺激や触発を受けることで、それまでの意識や理念を見つめ直す一助となることもあります。また、法政大学との連携、校友会・後援会、および各学部同窓会との連携した活動や、学生・大学院生に対する顕彰、および援助等にも力を注いでまいりました。

現在の日本経済に目を向けると、いやななきグローバル化とIT化の波の中で、ものづくりの国日本を支えてきたわが国の生産システム、特に中小企業の熟練に基づく生産体制は方向転換の必要に迫られています。しかし、このような変化に対して小回りの効く組織運営ができるのも中小企業です。相互に情報交換し協力し合うことで、ビジネスチャンスにつながるものがわれわれの生き残る道かと思えます。

現在はコロナ禍の下でなかなか思うような活動ができないう面もありますが、今後もさまざまな情報交換や文化活動を通じて、会員企業の発展はもとより、母校法政大学の発展に寄与していきたいと考えています。(北澤寛之)

100年の歴史を刻む「法政大学英語研究会」!!



2012年開催の90周年記念式典の様子

法政大学英語研究会(Hosei English Speaking Society、略称 HESS)は1922(大正11)年に創立され、今年で100周年を迎えました。創立当時どのような時代だったのでしょうか。大学令によって私立大学の設置が認められ、法大の前身である「財団法人法政大学」が1920年に発足しました。法学部、経済学部を設置し、大学予科、専門部、各学部の研究科を設けていました。1921年に、現在の市ヶ谷キャンパスに校舎を新築し、移転しました。

1922年には、法学部に文学科と哲学科を新設し、学部の名称も法文学部に変更しました。第1次世界大戦の終戦間もない時期で、前年には原

敬首相の暗殺事件がありました。また、スターリンがロシア共産党書記長に選出され、ウクライナ、現ベラルーシなどを含むソビエト社会主義共和国連邦が成立するなど、激動の時代でした。そのような時代に、まさに「進取の気象」に富んだ先輩たちが立ち上げたのが、会の前身となる「パロッドクラブ」でした。(1929年に「法政英語研究会」に会称を変更)

同会の運営や存続において、時代時代で数々の困難に見舞われたことは想像に難くありません。しかし多くの先輩方の努力によって100年の歴史が刻まれ続け、1800名を超える卒業生を輩出し、国内外のさまざまな分野で活動そのものが、英語力の向上だけではなく、考え

現在の学生は、スピーチ、ディベート、ディスカッション、ドラマ、リタラチャーといった五つのセクションに分かれての活動を中心に行っています。個別に説明しますと、「スピーチ」は聴衆を前にした弁論、「ディベート」は政治・経済の設定テーマを、肯定と否定両面の立場で相手チームと論戦、「ディスカッション」は設定テーマについてグループで議論、「ドラマ」は舞台劇の上演、「リタラチャー」は映画鑑賞後の評論や外国人へのガイド、ということになり、全て英語で行います。そして、これら多くの活動は他大学との交流や、優秀を決める形式で実施されます。

活動そのものが、英語力の向上だけではなく、考え抜く力、主体性、分析力、論理性、プレゼン能力、グローバル感覚などを磨くことにつながっています。現役の会員は100名を優に超えており、全国レベルの大会でも輝かしい実績を残しています。組織化された同窓会も発足20年目を迎え、同窓会の定期開催、会報の発行など、同窓生間の交流促進を図ることも、現役生への支援にも取り組んでいます。また今年度は、「創立100周年記念事業」(式典開催および記念誌発行)を計画しています。

これからの英語研究会の運営や活動においても、常に社会や学生の新しいニーズに対応し、さらなる歴史を刻み続けてほしいと願っています。(文 大桃信義)

訃報

- 原田健一氏(専門・政経卒)15年1月没享年92歳
- 萩原壽穂氏(経・経卒)15年5月28日没享年79歳
- 小宮山光男氏(経・経卒)16年11月14日没享年74歳
- 田丸昭一氏(工・建設卒)17年1月20日没享年88歳
- 大野眞広氏(旧経・経卒)17年1月28日没享年92歳
- 池田宗機氏(文・史卒)17年4月没享年93歳
- 山口広道氏(社・応経卒)17年7月19日没享年65歳
- 稲葉芳昭氏(経・経卒)17年10月没享年79歳
- 橋田義明氏(法・法卒)18年1月17日没享年72歳
- 高野俊英氏(法・法卒)
- 梅崎利秋氏(法・政卒)18年12月31日没享年82歳
- 柘茂恭氏(経・商卒)19年2月没享年82歳
- 堀内良一氏(経・経卒)19年4月3日没享年85歳
- 石田正美氏(文・史卒)20年4月10日没享年75歳
- 長谷川忠氏(営・営卒)20年5月6日没享年78歳
- 松浦英俊氏(経・経卒)20年6月6日没享年76歳
- 宮司健志氏(経・商卒)20年8月29日没享年86歳
- 松南裕之氏(経・商卒)20年10月没享年83歳
- 大貫邦明氏(経・経卒)20年11月没享年84歳
- 鈴木雅子氏(文・日文学卒)20年12月没享年79歳
- 岡部英男氏(工専・建設卒)20年没享年92歳
- 河野直行氏(営・営卒)21年1月没享年80歳
- 倉田竜彦氏(法・法卒)21年2月10日没享年76歳
- 嵯峨明氏(経・経卒)21年3月3日没享年79歳
- 吉田秀則氏(法・法卒)21年3月29日没享年63歳
- 奥田スミ氏(法・法卒)21年4月30日没享年89歳
- 上地弘展氏(営・営卒)21年4月没享年81歳
- 関根猛氏(法・法卒)21年5月14日没享年82歳
- 加藤真久氏(社・応経卒)21年6月没享年85歳
- 和田浅吉氏(法・法卒)21年6月没享年81歳
- 山内秀一氏(工・建築卒)21年7月15日没享年76歳
- 大塚矩雄氏(経・経卒)21年10月3日没享年91歳
- 吉井達夫氏(経・経卒)
- 鈴木茂氏(文・日文学卒)21年10月没享年89歳
- 相川榮徳氏(法・法卒)21年11月4日没享年76歳
- 橋本俊彦氏(法・法卒)21年11月10日没享年77歳
- 竹重高志氏(工・建築卒)21年11月23日没享年64歳
- 濱名達氏(社・社卒)21年12月25日没享年79歳
- 岩村元雄氏(経・経卒)21年12月31日没享年84歳
- 大倉龍三氏(法・政卒)21年没享年95歳
- 佐藤瑞穂氏(工・機械工卒)21年没享年86歳
- 川村賢一氏(社・応経卒)21年没享年83歳
- 三谷勝栄氏(経・経卒)21年没享年82歳
- 北田茂氏(1953年法・法卒)21年没享年不明
- 渡辺文司氏(経・経卒)21年没享年88歳
- 草別義昭氏(工・経営工卒)21年没享年85歳
- 高橋晋氏(法・法卒)21年没享年88歳
- 三木民生氏(営・営卒)21年没享年74歳
- 宮崎宗吉氏(1957年文・教卒)21年没享年不明
- 三上純昭氏(社・社卒)21年没享年65歳
- 五十川チトセ氏(文・英卒)
- 橋本茂雄氏(経・商卒)22年2月16日没享年84歳
- 新井欣也氏(経・経卒)22年2月28日没享年90歳
- 石井進氏(工専・電通卒)
- 松永怜一氏(経・経卒)元法政大学野球部監督
- 山本武志氏(経・経卒)22年5月12日没享年90歳
- 小山内信一氏(1964年営・営卒)没年・享年不明
- 三上哲夫氏(1958年経・商卒)没年・享年不明
- 田部弘一氏(1968年営・営卒)没年・享年不明
- 嶋津靖定氏(1959年法・法卒)没年・享年不明
- 中塚允氏(1960年法・政卒)没年・享年不明
- 元木恒雄氏(1954年経・商業卒)没年・享年不明
- 斎藤隆氏(1951年経・経卒)没年・享年不明
- 林幹雄氏(1961年法政二高卒)没年・享年不明
- 太田八郎氏(1946年旧制法政二中卒)没年・享年不明
- 乙幡三郎氏(1945年法政二高卒)没年・享年不明
- 落合久男氏(1948年専門・政経卒)没年・享年不明
- 渡辺喜之氏(経営学部名誉教授)21年10月16日没享年81歳
- 本間義人氏(現代福祉学部名誉教授)22年1月12日没享年86歳
- 駒木悠三氏(工学部名誉教授)22年1月28日没享年81歳
- グレンジャー・トーマス氏(法政中高外国人特別講師)22年3月1日没享年56歳

校友探訪

学生や卒業生とのご縁ができれば

光明寺所属僧侶・
神谷町オープンテラス店長
木原 祐健さん



何らかのメディアで、ごで、予約した訪問者に週2
覧になったことはないだろ
うか。東京の港区神谷町駅
のすぐそばに神谷町オープ
ンテラスという場所がある
ことを。

このオープンテラスは、
浄土真宗本願寺派の梅上山
光明寺というお寺の一角に
ある。

光明寺は、創建が1212
年である。かつては真色
山光明寺と言ったが、
1645年に三代將軍徳川
家光が、この地を訪れた際
に、祖父の家康が献上され
た光明寺の梅を喜んだとい
う故事にちなみ、山号を梅
上山に改めるように命じた
という。徳川家に、ゆかり
のある寺である。

神谷町オープンテラスで
は、4月半ばから10月末ま
ですだち寒天という具合に。
このオープンテラスは、
コロナ禍で休業中であつた
が22年6月には活動を再開
した。

また、週1回、「傾聴」の
時間を設けて、訪れる人の
話を聴く機会を作っている
という。現在は、対面して
話を聴くことに加え、オン
ライン傾聴も行っている。

「傾聴は、いろいろな方
法がありますが、相手のお
話をじっくり聞かせていた
だく、耳を傾けることだと
思います。」

例えば、お話がなかなか
できない状況の
方とも、お隣に
じっと座って
一緒に時間を過
ごすことだけで
も、大事なこと
だと思います」と
木原祐健さん。



テラス再開で訪れた親子の娘さんは法政大学文学部に在学中

木原さんは光
明寺所属僧侶で、
神谷町オープ
ンテラス店長の肩
書を持っている。
その後、2005年に、

出身は、法政大学社会学
部で、2001年に卒業し
ている。いわゆる就職氷河
期世代である。

仏門に入ったのは、
2009年という。

木原さんは、神谷町オー
ペンテラス店長の経験を生
かして、2020年には
エッセイ集「神谷町オー
ペンテラスのおもてなしお
寺スイーツ12カ月」という
本を上梓している。

また2021年には、気
鋭の脳科学者である中野信
子氏と「中央公論 誌上で、
『暴走する心のメカニズム』
という対談を行っている。

一般的に、僧侶になる方
は、お寺の子が多い。
しかし、木原さんの実家
はお寺ではない。大学の学
部も仏教関係ではない。

では、なぜ若くして僧侶
になったのであろうか。
「卒業して就職できずに
いた2003年ごろでした
か。友人が光明寺の僧侶に
なっていたので、遊びと
人生相談を兼ねて来ていた
ことが、仏門に入ったきっ
かけです。」

オープンテラスの活動に
ボランティアで参加した

「卒業して就職できずに
いた2003年ごろでした
か。友人が光明寺の僧侶に
なっていたので、遊びと
人生相談を兼ねて来ていた
ことが、仏門に入ったきっ
かけです。」

テラスボランティアでテラ
ス店長と得度（仏門に入る）
という具合に、僧侶になる
以前から、人々の集う場所
で活動を行っていたのだ。
このように、ボランティア
アとして関わるうちに、
僧侶への道へ進んだ木原
さん。

すが、辛いとき、寂しいと
き、心が折れそうになると
き、自分のことを思ってい
ただいてくれる方がいらっ
しゃると考え、そう納得す
ることが阿弥陀様の救いで
あるのかなと思います。

自分の力では
解決できないことがある

「他力本願の『他』とい
うのは、阿弥陀様のことで
す。他力は阿弥陀様が救っ
てくださるはたらき、とい
うことを言っています。

自分をこうしなければな
らない、あししなければな
らない、とがんばるのは大
切ですが、自分の力だけで
はどうしようもないことが
ありますね。

「病氣や親しい方との死
別など、世の中には自分の
力だけでは解決できないこ
とが多くあるのではない
か、と考えます。」

他力は、阿弥陀様のはた
らきで、阿弥陀様は、ずっ
と自分たちを見守って救お
うと思っただけにいたって
くださる。

それは、願い事をかなえ
てくれるというのではな
く、自分たちのことを大事
に思っただけにいたって
くださる。どんな
状況になっても見守って
くださる方がいるんだ、とい
う思いを持っていること
が、些末なようで、大きな
ことだと思えます。

つまり、福祉施設のボラ
ンティア↓神谷町オープ
ン

ではない。いろいろなつな
がりの中で、人生を過ごし
ている。
「いろんな縁、その中に
いさせてもらっているのだ
す」と木原さん。

私たちは縁の中で
生かされている

期せずしてであるが、木
原祐健さんと筆者は、同じ
学部で、ゼミも同じ平野秀
秋ゼミであった。

もともと、卒業年度は四
半世紀を隔てているが、
2018年に亡くなった恩
師の縁がこういつながり
を持つとは、思いもしな
かった。

「私たちは、縁の中で
生かされているのではない
かと思えます。」

亡き方を通じて、ご一緒
の時間を過ごすということ
は大事なことです。縁
のつながりです。そうい
うはたらきを『他力』とい
うのかなと思います。」

当たり前のことだが、人
は自分だけで生きているの

（文 桑原政昭）

カレイドスコープ

校友会HP
オレンジ
MAP
掲載店

日々の細かな楽しみを大切に
長男・山田孝之（俳優）プロデュースの
ダイニングBAR「L'office」店主

山田 清孝
'75年経営学部卒

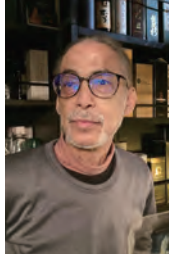
再開発ビルが建ち並ぶ鹿
児島中央駅のそばに、どこ
か懐かしい佇（たたず）ま
いのイタリアンのお店があ
る。入口のドアをくぐると、
10台以上の大きなスビー
カーと、優しい空気の山田
先輩が迎えてくださった。



当時の人気が
メニュー「仔羊の
グリル」は移転
した今も健在だ。
新型コロナウイルスの
影響で休業が増
えた昨年から、

「対面と違いオンライン
での傾聴は、相手の情報量
が限られてしましますが、
仕事や家事で忙しい、介護
で外出できない方などが、
利用してらっしゃいます。

オンライン傾聴には、忙
しいシングルマザーも、
ネットの検索や友人の伝手
を辿って、たどり着く人が
いるという。



このような活動が続ける
木原さんだが、これからど
ういう形で動くか、と訊ね
ると。

北千住の元氣印・和菓子の喜田家
店舗を利用してピアノ演奏会を開いたり

田中 恵美子
'65年経営学部出身

東京北千住から1955
年にスタートした和菓子の
喜田家は元氣一杯だ。

二代目店主の田中恵美子
さんは1965年の経営学
部の入学だが、家業を手伝
うために2年余りで退学し
たほどであった。代表的な
商品は、「六人衆」と名付
けたドラ焼。黒糖を使った
ふわりとした生地は本当
においしい。



お菓子作りだけにとどま
らず、店舗を利用してピ
アノ演奏会を開くとか、集え



『スポーツ法政』部員が熱血取材

目指すは4年後 悲願のメダル獲得へ
類いまれなるコンビネーションで

アイスホッケー

日本代表・床姉妹



今年の2月4日〜20日に得に到達することができず、悔しい気持ちが大い

かけて北京2022オリン

ピック冬季競技大会（北京

五輪）が開催された。数々

の競技が行われる中、ひと

きわ注目を浴びたのは女子

アイスホッケー。オリン

ピック4度目の出場にし

て、日本史上初めての決勝

トーナメント進出という快

挙を成し遂げたのだ。そし

てこの結果に大きく貢献し

たのは法政大学卒業生の床

亜矢可（とこ・あやか）平

成29年度卒ⅡSEIBUプ

リンセスラビッツ）、秦留

可（はるか）平成31年度卒

Ⅱ同）姉妹である。

予選トーナメントでは4

試合中3試合に勝利し、見

事1位で通過。特に

デンマーク戦では姉

妹そろって得点を挙げ

て、初の決勝トーナ

メント進出に力を尽

くした。しかし二人

は北京五輪について

ぶげんとした表情で

振り返る。「平昌オ

リンピックよりも自

分の中でトライする

ことができ、自信に

つながった。しかし

目標であるメダル獲

大変だった大学生活と競技の両立

そんな姉妹がアイスホッ

ケーを始めたきっかけは

幼稚園で行われたスケート

の授業。父である秦則さん

は自らの競技経験から、娘

たちに「氷上の格闘技」とも

称されるアイスホッケーを

やらせることに前向きでは

なかったという。しかし二

人はその面白さに引かれ

次第にのめり込んでいった

と語る。その後、北海道か

ら東京に移り住み、法政大

学スポーツ健康学部に進

学。大学に通いながら、現

在所属しているSEIBU

プリンセスラビッツで活動

することとなった。

しかし予想していた以上

に、大学生活と競技の両立

は大変だったと二人は苦笑

した。卒業式や卒業

旅行など、大学で楽し

みにしていた大きな

イベントはもちろ

中、楽しみにしてい

たのは大学の友人と

過ごす時間。「学食

でランチを一緒に食

べながら、たわいも

ないことを話すと

か、時には将来について真

剣に語り合う。そんな時間

姉妹の強み―抜群のコンビネーション

姉である亜矢可選手は快

活でしっかり者。そんな彼

女の座右の銘は「根」とい

漢字。粘り強く戦うのでは

なく、「根を張り続けて戦

う」と常に思っているとい

う。「根を普段見ることが

ないが、しっかり張ってい

ればいつかきれいな花が咲

く。そんな「根」と同様に

DF（ディフェンス）は日

の目を見ることがあまりな

い。しかしチームを支える

存在として勝利に貢献し、

結果を出しているという思

っている」と力強く語った。

対して妹の秦留可選手は

おっとりしていてマイペー

スだが、それでいて芯の強

さも伺える。座右の銘は特

そういうことを気にしない

でいるのだという。

そんな太陽と月のように

対照的な二人の強みは、約

20年間共にプレーをして

培ってきた、抜群のコンビ

ネーション。互いに自分が

絶対できないプレー、自分

が絶対選はない選択をする

ため、逆にお互いのことが

よく分かるのだという。加

えて亜矢可選手は「妹はセ

ンスの塊みたいな選手。た

信念と「大きな軸」を大切に
いろんなことに挑戦

常に二人の人生の大きな

軸としてあったアイスホッ

ケー。亜矢可選手にとって

アイスホッケーは自身の可

能性を広げてくれたものだ

という。「自分の夢や目標

は、常にアイスホッケーの

中にあり、アイスホッケー

を通して出会ったものや感

じたことで、私の可能性は

広がった。そしてこれから

先どんなに年を取っても

アイスホッケーで得た経験

がずっとその時の可能性に

つながっていく」と語る。

そして秦留可選手にとって

は自身を作ってくれたもの

であり、人生そのものだど

いう。

また夢に向かっている人

たちへ、姉妹はこのような

エールを送った。「何かに

チャレンジすること、何か

をかなえることは自分の中

に信念があったからこそで

きたことだ。自分の中にあ

る信念と大きな軸は大切に

しつつ、今だと本能的に

思ったら飛び込むことが一

番大事」と亜矢可選手。そ

して秦留可選手も「とにかく

いろいろなことに挑戦して

みてほしい。そうすれば、

支えてくれるたくさんの
人たちへの感謝を胸に

姉妹が目指す次の舞台は

2026年ミラノ・コル

ティナダンペッツォオリン

ピック。二人にとって今大

会の快挙はあくまで通過点

でしかなく、視線はもう4

年後を見据えている。「チー

ムとしての目標はもちろん

メダル獲得。4年後はより

強い自分になりたい」と力強

く話す亜矢可選手。また、

「今後は積み重ねてきた経

験や得たものを、今まで支

えてくれた周りの人に還元

していきたい。そして今日

が最高ではなくて、さらに

その先でもっと良いことを

起こしていきたい」と熱く

語る。それに対して「細か

い技術の繊細さや精度を上

げていくことはもちろん、

今大会で特に感じた状況判

断のスピードの差も埋めて

いきたい」と冷静に自分で

析する秦留可選手。

支えてくれるたくさんの

人たちへの感謝を胸に、姉

妹は悲願のメダル獲得に向

け、今、再び走り出す。

（文 溝口真央、

撮影 山中麻祐子）



法政大学体育会ラクロス部 紹介

「目指せ、日本代表！」

法政大学体育会ラクロス部 監督 副田あかね
1996年 法政大学法学部政治学科卒業 女子ラクロス部出身

体育会ラクロス部は 1990年に創部し、今年度で活動32年目を迎えます。皆さまはラクロスというスポーツをご覧になったことがありますか？ラクロスは10人でクロスを使用し、ゴールを狙う世界最速の迫力ある球技です。当部は日本でラクロスが始まって間もなく、有志たちが集まり男女同時に発足。準体育会の活動期間を経て、4年前にこの伝統ある体育会に正式加盟することができました。現在は男女合わせて約180名の部員が16名のコーチ・トレーナーと共に、今年度女子チームは関東一部リーグにおいて「学生王者」を目標に、男子チームは関東二部リーグで二部昇格を目標に掲げ練習に励んでおります。今年5月に行われた新人戦では、男子チームが初の関東優勝を成し遂げ、着実に力をつけ

ております。ラクロスは大学からチャレンジする学生がほとんどで、法政大学にもあらゆるスポーツの経験者が集まっております。われわれもトップクラスのアスリート集団であると自負しております。その証として、これまで日本代表選手を輩出しており、今年度も男子2名がU21の日本代表として、女子1名が6人制日本代表として、世界大会に出場予定です。

当部は勝利のみを追求するのではなく、ラクロスを通じて自分の人生を切り開ける開拓力を身に付け、社会で活躍できる人材を育成することを最優先に運営しています。練習メニューの作成、試合の戦術決定まで学生主体で行い、自ら考え行動することを大切にしています。コロナ禍での活動は学生にとって辛抱を必要



とする時間でしたが、大学や体育会関係者の皆さまに支えられ、活動を継続することができました。厚く感謝と御礼を申し上げます。私も一人の卒業生として、部の活動が受け継がれていることを誇りに思います。ラクロスは2028年ロス五輪で正式競技になる予定です。まさに当部からもオリンピックの誕生が現実的になってきており、今からワクワクしております。まだまだ未熟な部ではございますが、法政大学体育会の活動を広げる一助になれるよう努力してまいります。今後も変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

「輝く法大野球の黄金期」

松永伶一監督を悼む

法大の野球部監督を務め、ロス五輪の公開競技であった野球で金メダルに導いた松永伶一さんが、2022年5月12日に亡くなられた。享年90歳。多くの人には神宮球場でもお目にかかるなど、その都度野球指導者だった。1998年秋、私は、松永さんが冬季五輪を控えた

長野市に野球関係の催しで訪れた際に一緒にいた。当時、スポーツニッポン新聞社の長野支局に五輪支局長として赴任しており、松永さんには神宮球場でもお目にかかるなど、その都度野球談議に花が咲いた。忘れられないのは、松永さんが1968年秋の東京

六大学野球秋のリーグ戦で優勝した際の当時のスタメンをスラスラと口にされたことだった。「……三番サード富田勝、四番キャッチャー田淵幸一、五番センター山本浩二、九番ピッチャー山中正竹」と鮮明だった。私はその年の秋のシーズンは学生応援席に陣取り、その全てを目撃した。ちなみにこの当時、法政のユニホームは慶応と同じ、グレーを着用していた珍しい時代だった。その話を田淵

（文 エスポーツニッポン 新聞社編集委員 横川喜一）

